

8. 評価結果の詳細及び意見等

評価区分

1. 知・徳・体の調和の取れた子どもを育てる教育の推進

基本 施策	具体的事業	成果と課題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
① 学力向上 の推進	1 学力アップ土曜学習 事業	【成果】 中学生学力アップ講座で、塾講師を招聘し、わかりやすい指導により受験対策の学習を行った。 【課題】 参加者が減少傾向にある。	A	A	A	★各事業とも着実に実施されており、学力向上への継続した取り組みが感じられる。 ★これまでと違った「かたち」で取り組み、学力アップに繋がっていると感じる。取り組み方は色々あるが、しっかりと現状把握し、適切な対応が今後も求められている。三朝町の子どもたちの学力が、全国から注目されるような「かたち」を目指してほしい。 ★学力アップ土曜学習事業の参加者減少については、その原因を調査するとともに内容を精査し、参加者の増加を目指していただきたい。  ◎1. 学力アップ土曜学習事業 参加人数が、減少傾向にある。もっと参加者を増やすよう、事業を見直す必要がある。 ◎2. 複式学級解消事業 事業の効果は大きいと考える。	1. 学力アップ土曜学習事業 参加者推移 H27 小4回38人 中12回230人 H28 小4回61人 中10回190人 H29 小4回41人 中11回121人 中学3年生の生徒数や塾の利用率にもよるが、先生からの参加呼びかけを続けるとともに求められる学習内容についても検討します。
	2 複式学級解消事業	【成果】 複式学級化による児童の負担解消と学年別の授業実施ができた。	A				
	3 学校図書館等管理事 業	【成果】 図書の実と教員の事務負担軽減を図ることができた。 【課題】 図書館司書資格者の採用ができなかった。	A				
	4 学校図書館図書等整 備事業	【成果】 必要な蔵書を整備し、授業での活用や幅広い分野の図書に触れる機会を図った。	A				
② 国際理解 教育の推 進	5 台湾台中市石岡国民 中学校と相互交流事 業	【成果】 姉妹校の絆を深める交流と国際感覚を養うことができた。相互で教員が授業を行い教員の交流も深めた。 【課題】 今後の発展に向けた交流内容の検討。	A	A	A	★国際的な人間育成のため、より良い方向へ修正しながら推進されており評価できる。 ★将来的に小学校の英語教育が重要視されることから、台湾台中市との交流を小学校へ拡大することを検討していく必要があるのではないか。 ★国際交流は、どの学校において重要な課題と把握しており、三朝町はこれまで確立されてきた先人の強い思いを背景に、恵まれた国際交流のあり方となっている。国際社会に順応した人材育成により、心広い人格と国際社会に精通した人間形成を養ってほしいと願う。 ★台湾交流の「相互の教員による授業」、フランス交流での同年代の交流はとて有意義だと思う。若い世代の異文化交流は子どもたちの成長に大いに役立つことであり、長く継続していただきたい。  ◎5・6. 国際交流事業 課題にあがっている、今後の発展に向けた交流内容の検討を早急にする必要がある。 ◎7. 外国語指導助手等活動事業 教育現場である学校の現状を知り（授業等を参観する）何が必要なのか学校と意見交換したうえで授業補助ではないと、見当違いなことになってしまう。もっと、学校と密に連携することが必要であると感じる。 外国語指導助手（ALT）が小学校に入るのが前提であれば、ALTが使用する外国語の教材（We can 1, We can 2, Let's try 1, Let's try 2）の手配等をきちんとすることが必要である。学校現場での対応はできない。	5・6. 国際交流事業 派遣先での交流内容については学校に負担のない取り組みを協議する必要があり、ITを活用したネットワーク交流などを検討します。 小学校への拡大は課題もありますが、外国語活動等の充実のため可能な交流を考えていきます。  7. 外国語指導助手等活用事業 今後の新しい学習指導要領の導入を踏まえ、一層の外国語教育の充実を図るため、学校が必要としていることを確認し、可能な範囲で対応を検討するとともに、外国語指導助手の配置の有無も含めて学校現場と協議します。 指導助手の外国語教材の手配は事務局が行います。
	6 中学生手作り訪仏事 業	【成果】 新たに中・高等学校へ訪問するなど、交流を発展させる契機とすることができた。 【課題】 今後の発展に向けた交流内容の検討。	A				
	7 外国語指導助手等活 動事業	【成果】 中学校英語授業のサポートおよび小学校外国語活動のサポートを行うことができた。 【課題】 各小学校への訪問は週半日であり、今後の小学校における英語授業の導入に際しては小学校担当ALTの配置を検討する必要があるとともに、小学校教諭との間をつなぐコーディネーターの検討も課題となった。	A				

8. 評価結果の詳細及び意見等

評価区分

1. 知・徳・体の調和の取れた子どもを育てる教育の推進

基本 施策	具体的事業	成果と課題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
③ 学校施設 の整備の 促進	8 教材備品等整備事業	【成果】 計画通り整備中、平成31年度が最終年。	A	A	A	★小学校統合が予定されている中、各事業が推進されていることはとても評価できる。 ★教育をおろそかにする町は衰退の一途をたどると考える。教育環境の整備は非常に重要なことであり、財政がひっ迫している状況であっても投資を惜しんではならない。年次計画を立て、しっかりと状況に応じた対応を願う。 ★予定されていた整備は順調に実施されており、高く評価する。今後はトイレの洋式化を進めていただきたい。  ◎ 9. 施設維持修繕改修事業 学校のトイレ等の修理が急がれる。	9. 施設維持修繕改修事業 大規模な修繕は現段階では困難と考えますが、学校生活において老朽化しているライフライン設備等、急を要する修繕は対応していきます。  10. OA機器等備品整備事業 今後も計画的に整備を進めます。
	9 施設維持修繕改修事業	【成果】 予定事業は完了。 【課題】 各施設とも老朽化により修繕必要箇所は多数あるが、財源の関係上すべての対応はできていない。	A				
	10 OA機器等備品整備事業	【成果】 教員用PC更新は平成30年度で更新完了予定。 【課題】 活用方法の検討と小学校用PCのタブレット化、情報機器の整備計画の作成。	A				

評価区分

2. 郷土に学び、郷土を誇れる子どもを育てる教育の推進

基本 施策	具体的事業	成果と課題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
④ ふるさと 三朝町を 愛する子 どもたち の育成	11 三朝町創意と特色あ る学校づくり推進事 業	【成果】 学校ごとに特色ある事業に取り組み、児童 生徒の感性を育めた。	A	A	A	★三朝町が地域と連携して取り組んでこられた事業は とても評価できるので、今後も継続して取り組んでほ しい。 ★三朝町を愛する子どもたちの育成は各学校の裁量で 行われるもので、強制するものではないが、地域の歴 史・文化・風土・人間性等取り入れながら伝承してい くことは重要であると思う。そうした背景で、各校の 取り組みは的確に実施されていると考える。 ★小中学生時代に様々な体験活動を行うことは、とて も大事なことであり、今後も活動を通じて、ふるさと 三朝町を愛する子どもを育てていただきたい。	11. 三朝町創意と特色ある学校づくり推進事業 12. 総合的学習事業 引き続き、各学校独自の取組として、地域（団体 等）と連携を図りながら事業を継続します。
	12 総合的学習事業	【成果】 児童生徒が主体的に学ぶ力の育成ができ た。	A				
⑤ 地域で子 どもたち を育てる	13 大人の背中運動	【成果】 あいさつ運動には、地域の方々も参加して いただき、生活習慣を養った。学校でも生 活習慣を身に付ける取り組みを実施。 【課題】 あいさつ運動以外の取り組み検討。	A	B	B	★三朝町が地域と連携して取り組んでこられた事業は とても評価できるので、今後も継続して取り組んでほ しい。 ★部活動について休養日の設定が検討されており、今 後は中学生が町内で活動できるよう支援のあり方を検 討してほしい。 ★高校生サークルが発展するよう取り組んでほしい。 ★児童・生徒の健やかな成長や夢や目標の実現、ま た、社会に通用する子どもたちを育てていくために も、学校・家庭・地域の役割は多岐にある。背伸びす ることなく、着実に実施することが人財育成と考 える。 ★少子化の影響で「子ども会育成事業」、「青少年団 体育成事業」の活動が困難となってきている。子ども 会を複数の集落で組織したり、青空体験塾などへの参 加を呼び掛けるなど、工夫しながら地域で子どもを育 てる活動を進めていただきたい。  ◎13. 大人の背中運動 あいさつ運動については、昨年評価委員会から、 「家庭生活を含めた取り組みが必要である」「始める と手段が目的化することが多い。初心に立ち返って みることも大切ではないか」との指摘を受けていたが、 そのことに留意して、取り組みが行われたのか？ 大人の背中運動は、「あいさつ運動の実施」「履物 をそろえる事」の推進、「ノーテレビデー」運動の推 進の3つだったと思うが、あいさつ運動のことしか、取 り組みとして出ていないのはどうしてか？ H27年度の 評価委員が、「ノーテレビデー」は、ゲーム機、ケー タイ、スマホなどを含めた「ノーメディアデー」に拡 大する方向で検討してほしい。また、「ノーテレビ デー」は効果的な取組にリニューアルしたほうが良い と思われる。と指摘し、H28年度には、再度評価委員か ら、「自己評価、評価委員の評価に対する改善がみえ ない」と指摘されている。	13. 大人の背中運動 「履物をそろえる」は各学校でも取り組んでいま す。 「ノーテレビデー」は憩いの日として家庭での取り 組みが中心であり、定着していると考えます。 テレビ以外のメディア機器の使用については、家庭 生活での問題でもあり、保護者に啓発していくととも に、生徒自身の問題として自覚させることも必要と考 えます。  14. 地域が育てる子どもの総合対策事業 H29ワクワク宿泊体験塾は参加募集方法や実施体制等 の改善を行いました。参加児童数が10人でした（H28 は15人）。参加児童数の減少や費用対効果等を勘案し てH30は実施しないこととしました。  H30年度のみささ青空体験塾（H30.7.28）において三徳山 登山、座禅活動が計画されています。活動の内容につ いては実施団体により計画されているところではあり ますが、体験活動の場として三徳山に訪れていただけ るように実施団体に働きかけを行います。
	14 地域が育てる子ども 総合対策事業	●ワクワク宿泊体験塾 【成果】 参加児童が主体的に家事、掃除を行うよう になるなど、子どもたちの成長を見ることが できた。 【課題】 参加人数が少ない、参加学校に隔たりが あった。  ●青空体験塾 【成果】 多くの子どもたちが野外活動を体験した。  ●南小土曜楽校 【成果】 地域とのつながりや地域の魅力発見ができ た。	B				
	15 三朝町、城陽市文化 スポーツ交流事業	※台風による荒天のため中止	—				
	16 未来を拓けみささっ 子創造事業	【成果】 講師への質問も多数あり、関心の高さがう かがえた。	A				

評価区分

2. 郷土に学び、郷土を誇れる子どもを育てる教育の推進

基本 施策	具体的事業	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
	17 青少年団体育成事業	【成果】 高校生サークルの立ち上げについて、高校生に参加を呼びかけ会議を開催することができた。平成30年度から本格的な活動を開始予定。 【課題】 今後継続していくことが必要。	B			そのことを真摯に受け止め、改善しないと、この評価の意味が全くない。 ◎14. 地域が育てる子ども総合対策事業 ワクワク体験塾は15年以上継続して実施されている。同じ実施内容で良いのか、あるいは見直す必要があるのかを検討する時期に来ていると思う。 青空体験塾は、とても良い取り組みである。今後も、より良い活動となるよう、継続を望む。 「日本遺産」となった地域の誇りでもある三徳山に訪れる機会が、子どもたちに提供されていない。今後、そのような取り組みがあって良いのではないかな？ ワクワク宿泊体験塾で参加学校に偏りがあるのは、クラスの人数を考えれば仕方ない面もある。 ◎17. 青少年団体育成事業 高校生サークル活動が本格化することを期待する。	17. 青少年団体育成事業 高校生サークル活動については、活発な意見交換を行いながら活動内容を検討するとともに、引き続き声掛けを行い組織化に努めます。
	18 子ども会育成事業	【課題】 町子ども会育成連絡協議会を組織しているものの、町主催の研修会などの開催はできていない。県子ども会育成連絡協議会、全国子ども会安全共済会と各子ども会との橋渡しの役割しか担えていない。					
⑥ 家庭教育 の充実	19 小中学校PTA連絡協議会事業	【成果】 連絡協議会に参加しPTAとの連携を深めた。	A			★保護者向け研修会はとても大事なことで、おろそかにしてはならない事業である。勿論、全ての保護者が一同に学ぶことは出来ないが、学ぶ環境づくりと工夫が重要であり、全ての学校で実施していくことが望ましい形と考える。(一度に大きな成果を期待するのではなく、着実に実施し積み重ねていくことが重要) ★家庭教育の支援に引き続き努力していただきたい。	20. 家庭教育支援基盤形成事業 講座開催を推進するにあたり、家庭への効果的な周知や関心を持てる内容等について保育園、学校と連携・協議を行い、参加しやすい事業の展開を進めます。
	20 家庭教育支援基盤形成事業	【成果】 保育園、こども園、学校の要望を確認し開催できた。 【課題】 保護者を対象とした講座を開催したが、すべての保育園、学校で開催するよう積極的な講座開催を推進する必要がある。					

評価区分

3. 子どもの実態に応じた、多様な学びを保证する教育の推進

基本 施策	具体的事業	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
⑦ 家庭、地 域、こど も園（保 育所）・ 学校、 行政の連 携強化	21 三朝町教育研究会事 業	【成果】 大学教授による授業研究会および教育講演 会をととして教員の指導力向上に努めた。	A	B	A	★三朝町教育研究会は重要な組織であり、園児、児 童、生徒を一貫して教育するという生涯教育に繋がる ものであり、着実に推進されていると評価する。今後も 教員の研修を深める体制を継続してほしい。また、 各事業とも着実に実施されており、学力向上への継続 した取り組みが感じられる。 ★実施にあたり、調整が困難な事項も様々あると思 うが、行政と学校の連携は重要であると考えて。外部か らの意見もあると思うが、方向性を見失うことなく取 り組んでいただきたい。 ★保小中で教職員の指導力向上に努力している取組 みは高く評価する。今後も内容を充実しながら継続し ていただきたい。 ◎大学教授による授業研究会を開いたことは、意義が あることではあるが、町内4校の教員全体の指導力向上 につながるための仕組みがあったのか。町の全教員が 参加できる日程調整があったのか、検証していく必要 がある。	実際の授業で行う研修であり、全職員が参加する取 り組みは困難な結果となりました。今後は別の機会に 情報交換や指導が行えるような取り組みとなるよう協 議します。 教職員は研修が多く多忙であるため、研究会のあり 方について考える必要があります。
⑧ 特別支援 教育の充 実	22 特別支援教育事業	【成果】 支援員の配置によりスムーズな授業運営が できた。 【課題】 支援が必要な児童生徒が増える傾向にあ る。	A	A	A	★特別支援教育の推進は、学校運営において力強い支 援となっており、評価に値する。今後も支援の必要な 児童生徒にさらなるきめ細かい対応をお願いしたい。 ★特別支援教育は非常に大切な教育であり、支援員を 増やす等、さらに充実していく必要がある。 ◎今後は、支援が必要な児童生徒が増える傾向にある ので、しっかり支援できる体制づくりを作っていた きたい。 ◎引き続き確かな支援体制をお願いする。	近年の社会情勢の変化に伴い、支援を必要とする児 童生徒も増加傾向にあるとともに、発達特性も多様化 しています。今後も個々の特性に応じた支援体制を確 保していきます。
⑨ 開かれた 学校づく りと学 校・家 庭・地 域の連 携	23 学校支援推進事業	【成果】 意見交換を実施し、学校と地域のコーデ ィネーターとの間で事業の共通認識が図れ た。各学校において、多くの方に学校サ ポート隊として学校事業へ協力いただ いた。	A			★各事業とも継続した取り組みの中で、学校と地域が 連携する姿勢が見られ、とても評価できる。今後も各 学校に対する支援や協力体制を継続してほしい。 ★少子高齢化社会の中、地域住民の支援は学校教育に 必要な事である。また、地域住民が学校に関わるこ とで、住民自身が学校活動から活力を得ることもあ る。地域協議会等が学校と地域の調整役となり、より連 携を深めた教育を推進してほしい。 ★子どもたちが心身ともに健やかに育成するため、今 後も学校・家庭・地域が連携して様々な教育活動を実 践していくことが大切である。	23. 学校支援推進事業 各学校のニーズを的確に把握するためにはサポート 隊との意見交換は重要であると考えます。今後も情報 交換を行いながら、サポート隊の協力体制を推進しま す。
	24 学校評価事業	【成果】 学校支援委員会による学校評価を行い、成 果や課題を再確認し、今後の学校運営に役 立てることができた。	A	A	A	◎23. 学校支援推進事業 「地域の教育力」は図れたのか？サポート隊の再募 集は、大変良いと思うが、もっと学校の意見を取り入 れ、現場に必要なサポートが出来るよう、努力しない といけない。意見交換会を行うことで、何かの改善が できたのか？ ◎24. 学校評価事業 学校支援委員会は、何を目的としているのか、再確 認が必要である。委員会の構成員を検討するべきで はないのか？	24. 学校評価事業 支援委員会の任期は1年で、学校経営を評価し改善 の提案と協議を行っています。 委員会の構成は各学校が推薦し、教育委員会が委嘱 しているところです。



評価区分

4. 主体的に学び、自分で考え、判断し、行動できる子どもを育てる教育の推進

基本 施策	具体的事業	成果と課題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
⑩ 社会に適 応する能 力の育成	25 命を大切に する学習 事業	【成果】 命の大切さについて学習を深めることができた。	A	A	A	★命の大切を学ぶ取り組みは学校だけでは難しいが、着実に推進されていると評価できる。今後も家庭や地域と連携しながら、多くの場面を想定した取り組みを継続してほしい。 ★「命」の大切さに関わる学習は、学級単位やグループワーク等の手法で進めていると考えるが、教えるべきことは「生あるものはいつか死がある」ということであり、喜びと悲しみ両面の視点を年齢に応じた教育を行う必要があると考える。 ★命を大切に する学習は大切な事であり、継続して力を入れてほしい。	引き続き、学校や地域、子育て世代と連携を図りながら、保健師や助産師等を招へいし、児童生徒たちが自分自身を価値ある存在と認め、自分を大切に思う自尊感情を持てるとともに、「いのち」の存在を「人ごと」感覚ではなく、「自分のこと」として捉えることができる意識付けを行う教育に取り組みます。
⑪ 豊かな人 間性、社 会性を育 む教育の 推進	26 いじめ問題 調査委員 会開催事業	※該当事案なし	—			★多くの事業により子どもたちを見守っている姿勢が感じられ評価できる。 ★いじめの事案は発生しなかったが、大切なことはいじめが起こった場合の対応である。今後もいじめはどこでも起こりうるという認識をもって取り組んでほしい。	28・29不登校対策 児童生徒を対象にハイパーQUを実施し、早期に課題を見つける調査を行っているところ。 中学校は生徒指導推進委員会を月1回開催、職員会でも情報共有を行っており、学校全体として共通理解を図っています。
	27 心の教室 相談員設 置事業	【成果】 相談員が優しく見守り、個々が抱える課題を気軽に相談できる関係を築くことができた。 【課題】 生徒に個人差があり、すべて対応することは困難であった。	A			★いじめ・不登校はあってはならない事。日頃から備え対策（発生予防）を十分討議しておくことが重要を考える。	引き続き、小さな変化を見逃さないよう教職員等に見守り活動を行っていただきます。
	28 不登校対策 支援員配 置事業	【成果】 頻繁に家庭訪問（迎え）を行っており、生徒とのつながりは保っている。 【課題】 頻繁に生徒と接しているものの、不登校生徒はなくなる。小学校でも対策を検討する必要がある。	C			★30.子どもフェスティバルの企画について改革されたし。 ★不登校の生徒が増加傾向にある。理由は様々であり、問題解決は難しいと思うが、粘り強く解決に向け努力していただきたい。	30.みささ町かがやく子どもフェスティバル開催事業 平成29年度に事業の見直しを行いました。平成30年度は企画段階において実行委員会を組織し、更なる改革に努めます。
	29 いじめ、 不登校対策 事業	【成果】 ハイパーQU調査により学校生活での心の状態を把握し、教職員による早期対策の検討ができた。 【課題】 状態を早期に把握できるが、不登校児童生徒はなくなる。	A	B	B	◎28・29.不登校対策 昨年の評価委員から、「支援員だけではなく、学校全体としての研修を深めていく必要がある」を指摘を受けているが、そのための取り組みはなされたのか？ 不登校対策支援員の配置では、結果として不登校者数の減とはなっていないが活動自体は評価する。	
	30 みささ町 かがやく 子ども フェス ティバル 開催事業	【成果】 事前に関係者で検討会を行い、日程や内容について見直しを行った。ものづくり体験とステージでのイベントを午前と午後の部で分けて実施した。 子どもを対象としたものづくり体験ブース、ダンボール紙相撲大会も活気あふれる事業となった。 【課題】 ステージでの体験発表において観覧者が少ないため、より多くの方に参加していただけるよう改善が必要。	A				

評価区分

4. 主体的に学び、自分で考え、判断し、行動できる子どもを育てる教育の推進

基本 施策	具体的事業	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
⑫ 小学校統 合の推進	31 小学校統合事業	【成果】 義務教育の将来像を公表。統合について議 会での説明を行い反対意見はなかった。 【課題】 具体的な取り組みを公表することができな かった。	D			★小学校統合は難問だが、三朝町の学校教育を考えると避けては通れない問題であり、今後はぜひ推進してほしい。 ★今までの小学校統合についての対応には呆れている。3校同時でなければ統合する意味がないのでよろしくお願ひしたい。3校同時に出来ないのであれば先延ばしにした方が三朝町のため、子どもたちのためだと思う。 ★小学校統合の方針がきちんと確定されていない。地域や関係者との話し合い、アンケート調査を実施して時間がかかっても、教育委員と町長の意見を一致させたいうで、町民に提示していただきたい。	31. 小学校統合事業 過去を含めて方向性が変更になったことについて深く反省しています。今後は平成31年4月の新小学校立上げに向け努力します。
	32 学校統合準備委員会 開催事業	【課題】 統合に向けた教育委員会としての方向性が定まらない中での準備委員会開催は行えないため、開催は1回にとどまった。 一刻も早く方向性を定め、準備委員会で検討すべき材料を整理する必要がある。	D	D	D	◎31. 小学校統合事業 統合について各委員の意見調整に難行した。早期に落とし所を見出す努力が足りなかった。 委員会決定したことを正確に早急に公表することが必要だった。今後は、教育委員会として責任をもって決定事項を公表し、統合に向けて取り組まなければならない。 統合について、現時点の動きを関係機関に報告したり、町報をとおして町民に徹底したりしていきたい。 統合の方向性が定まったので、委員会を充実していきたい。 H31統合に向けて最善の努力をしましょう。	
⑬ 学校での 安全対策 と保護者 負担軽減	33 AED設置事業	【成果】 継続してAEDを設置し、早急な対応ができる環境を整備した。	A			★各事業とも着実に取り組まれており、評価できる。 ★A評価の場合は、具体的事業や目標値を変更して、新たな目標を設定してほしい。 ★安全な学校づくりは必要な課題であり、引き続き積極的に取り組みを進めていただきたい。	引き続き、安全な学校づくりと保護者の負担軽減に努めます。
	34 災害共済給付事業	【成果】 事案発生時に学校から保護者へ制度の案内を行い、円滑な給付事務を行うことができた。 また、制度について各学校養護教諭と相互確認する機会を設け、給付事務のさらなる円滑化に努めた。	A	A	A		
	35 特別支援学校児童生徒 通学支援事業	【成果】 利用者の安全を確保し、さらに保護者の負担軽減を図ることができた。	A				
	36 準要保護児童生徒援助 事業	【成果】 新入学学用品費について、入学前に支払うことができるよう制度を改正した。	A				

評価区分

5. 健やかな心と体づくりを推進する教育

基本 施策	具体的事業	成果と課題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
⑭ 健やかな 心と体づ くりの推 進	37 運動部活動外部指導 者派遣事業	【成果】 練習方法などの指導を受け、中部新人戦では優勝を収めた。	A			★外部指導者の派遣により、その効果が表れており評価できる。 ★部活動の機能はしっかりと担保し、学業と部活動をとおして、生徒の文武両道を推し進めるべき。そのために、先生の働き方改革は当然にあると考える。外部指導者の要請については、行政、学校のみならずPTA等も連携し配置を検討してほしい。 ★部活動の存続については生徒たちにとって大きな影響を与えるが、今後は避けて通れない問題であると考ええる。	37. 運動部活動外部指導者派遣事業 教職員の働き方改革も含めて、部活動の実施方法等について検討します。
	38 食育推進事業	●地産地消 【成果】 生産者と積極的に連携を図り、地域の特産を生かした給食の提供と、郷土愛を育てる支援を行った。 【課題】 生産者の高齢化により、三朝町産の食材調達は今後懸念される。  ●食育指導 【成果】 各小学校は学校まつりにおいて食体験や食を知る取り組みを行い、中学校では親子食育教室を開催した。また、県調理師会と協力して鹿カレーの給食を実施した。 【課題】 学校給食へのジビエ活用の取り組みが一過性になりがちである。今後の取り組み方法の検討が必要。	A	A	A	★少子化に伴う生徒数の減少により、中学校部活動の維持は非常に危惧される。今後、部活動の再編も検討が必要になると考える。 ★食育推進の地産地消率96%は非常に評価できる。 ★食育は町内産・県内産で地産地消率96%は驚くべき数値。今後も、意識して継続的に取り組むとともに、「命」に対しての食育も願う。 ★学校給食の地産地消の取り組みは素晴らしい。継続して力を入れていただきたい。  ◎残食の減少につながる献立や味付けの工夫の取り組みはどうか？ ◎食育は、家庭が担う面も大きいので十分に連携を図ることが大事。引き続き地産地消、食育推進に努めていただきたい。	・食育推進事業 残食推移（1人年間）H27：549g、H28：522g、H29：557g、H25全国：7,100g 安全な食材提供のため、マニュアルによる温度管理もありますが、残食量を減らす取り組みを考えます。
⑮ 生涯ス ポーツの 推進	39 スポーツ推進員活動 事業	【成果】 推進員の定数配置により、本町の生涯スポーツの普及推進を図ることができた。 各種研修会に参加することで、資質向上を図ることができた。 今後もさらなる資質向上を図り、スポーツの普及推進に努めていく。	A			★生涯教育を考えると、スポーツ振興の取り組みは評価できる。今後も気軽にスポーツに参加できる機会を継続してほしい。 ★スポーツ推進員の定数配置できていることは喜ばしい。生涯スポーツの普及促進は大切な課題であり、引き続き努力していただきたい。	生涯スポーツの推進については、誰でも参加しやすい継続的な事業展開を行う必要があります。スポーツ推進員による底辺の拡大を図りながら、郡民体育大会を中心に生涯各期にわたる各種スポーツ大会に参加を促し、町民の健康増進と体力づくりの向上を図ります。
	40 三朝町体育協会活動 事業	【成果】 年間を通じて各種スポーツ大会を開催し運営を行った。 郡民体育大会では、総合は男女とも4位に終わったものの、好成績を収めた競技もあった。 県民スポレク祭、中部駅伝大会への参加派遣、町駅伝大会の開催や各競技団体の強化育成を行うことで、町民のスポーツの進捗と健康増進に寄与した。	A	A	A		
	41 社会教育施設災害復 旧事業	※地震災害復旧事業を行った。 ・6月22日完成	-				



評価区分

6. 生涯にわたって学び続け、事故の人格を研ぎ、豊かな人生を送ることができる町の実現

基本 施策	具体的事業	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
⑩ 生涯学習 の環境整 備と活動 支援	42 三朝大学開催事業	【成果】 各講座における参加者の満足度は高かった。	A	A	A	★生涯教育を考えると、町民の生涯学習の取り組みは評価できる。今後も気軽に参加できる内容を継続してほしい。 ★三朝大学は、三朝町教育大綱の基本理念の一つである「生涯にわたって学ぶことのできる町をつくる」の中核的な事業であり、今後も参加が増える努力をしていただきたい。	高齢世代の生涯学習を支援するため、講演会や各種研修講座については、対象層の学習ニーズを的確に把握する必要があります。参加者からのアンケートに基づき先見性のある企画立案を行い、充実した学習機会の提供に努めます。
⑪ 人権学習 の充実	43 人権啓発講演会等事業	【課題】 人権学級について人口減少などを理由に開催しない集落がある。学習の継続の意義について理解していただくことが必要。	C	C	C	★数値目標が実態と合わなくなっているため、目標値の変更を検討された方がよい。 ★目標値47集落で開催に対して33集落で実施しており、達成率70%なのでB評価で良いのではないかとと思うが、次年度からは現状を把握し、目標値を根本的に改善したほうが良いと考える。 ★人口減少により、人権学級が開催出来ない集落も発生している。開催方法を見直し多くの住民が参加できる方法を考えてほしい。人権講座について回数を減らし内容の充実を考えても良いのではないかと。 ◎落語などは動員を掛けなくても人は集まって来る。自治体の責務として開催するのではなく、町民の心を豊かにし満たしていくことを目標に内容を整えていけば参加者も増えると思う。(例、論語教室など) ◎47集落中33集落の実施ならば評価Bでも良いのではとも思うが、出席者数はどうであったか、その顔触れは何時も同じではないか、などがある。参加者を増やすことがなかなか難しいことは承知している。	講演会や人権講座の内容については、アンケート結果を踏まえて毎年検討しています。今後も様々な人権問題をテーマに、広く町民に人権学習の機会を提供していきます。 集落の人権学級の参加者数については524人（多いところで60人、少ないところで7人）という状況でした。座談会や寄合など集落行事と合わせて開催し多くの参加をいただいた集落もありました。学習の取り組み方法、内容については、引き続き集落に協力をお願いするとともに、地域協議会とも協議しながら開催手法について検討しています。
⑫ 文化、芸 術活動の 振興	44 青少年劇場開催事業	【成果】 優れた芸術に触れることで、健全育成に資することができた。	A			★山口恵梨子杯将棋大会は、三朝町にゆかりのある著名人を招いての大会であり、三朝町を全国に発信するうえでも効果があると考えるため、継続して実施していただきたい。	45. 山口恵梨子杯将棋大会事業 事業開始5年目を迎えており、平成31年度以降は実施も含めて検討します。
	45 山口恵梨子杯将棋大会事業	【成果】 子ども将棋教室を開催し、町内の子どもに将棋の面白さを伝えることができた。日本将棋連盟鳥取県キッズ支部主催の大会が開催された。	A	A	A		
	46 女流本因坊戦三朝大会開催事業	【成果】 10月22日に交流囲碁大会ではロシアからの交流団も参加、本町の文化芸術活動の発展・振興を図ることができた。 【課題】 継続実施の場合、補助金に依存しない費用負担のあり方について検討が必要。	A				

評価区分

6. 生涯にわたって学び続け、事故の人格を研ぎ、豊かな人生を送ることができる町の実現

基本 施策	具体的事業	成果と課題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
⑱ 郷土芸能 の伝承保 存	47 無形民俗文化財保存 伝承事業	【成果】 補助金交付要綱に基づき経費の一部を補助。文化財の適正な保護を図ることができた。	A	A	A	★郷土の誇れる伝統芸能を存続していく事業の取り組みは、評価できる。 ★ジンショが未永く伝承されるよう、適切な補助を継続していただきたい。	過疎化の進行や少子高齢化により、無形民俗文化財の保存伝承を取り巻く状況が厳しさを増す中、郷土の貴重な財産として後世に残すために適正な保護を図る取り組みを行います。
	48 三徳山遺跡発掘調査 等事業	【成果】 新たな遺構を多数確認し、その構造によって「湯」が山陰地方における修験者育成センターの機能を果たした可能性が示唆されることとなった。集石1基を解体調査し、内部構造を確認した。また、周辺の分布調査により、遺跡の範囲が当初の想定より大きく広がっていることが確認できた。	B			★多くの事業が推進されており、評価できる。 ★歴史的にも文化的にも重要な遺跡が数多く存続しているが、その魅力が発信しきれていないように感じている。IT機器の活用等を検討してほしい。 ★三朝町の財産となる遺産。活用方法は多岐にあると思うので、関係機関等と協議を重ねふさわしい事業のあり方を創造すべし。 ★地震等の影響のためか三朝温泉の宿泊者数が減少しており心配している。日本遺産を活用して宿泊者が回復することを期待する。 ★三徳山の三鈿の岩屋や神倉の湯の調査研究を通して古代修験道の道場としての両者の遺跡を明らかにし、これを主題として再度、世界遺産登録を目指していただきたい。	51. 日本遺産魅力発信推進事業 目標設定については、事業全体の効果を端的に示す指標として宿泊者数を選択したものです。国の補助事業終了を機に、町長部局（観光交流課）、日本遺産三徳山三朝温泉を守る会、三朝温泉観光協会と平成30年度以降の役割分担を整理した結果、教育委員会は①文化庁が関与する「日本遺産フォーラムへの参加」、②文化庁との協議、③日本遺産三徳山三朝温泉を守る会への補助金交付、の3点を担当するとしたことを踏まえ、平成30年度以降の目標値は適切な指標を検討・提案します。
49 三徳山総合調査報告 書作成事業	【課題】 平成29年度に実施した神倉「湯」、勝手権現岩屋、蔵王権現岩屋の調査によって、追補を予定していた山岳修験関係の研究が大きく進展し、原稿の根本的な書き直しが必要となったことから、印刷製本を平成30年度に繰り越した。	C					
50 世界遺産登録促進事 業	【成果】 日本山岳修験学会山本義孝氏を講師に、神倉「湯」、勝手権現岩屋、蔵王権現岩屋の調査成果を周知し、三徳山の普遍的価値を再確認することができた。	A			◎48. 三徳山遺跡発掘調査等事業 三徳山の調査研究が進み、町内外にも大きな影響を与えていることは大きな成果だと考える。 ◎49. 三徳山総合調査報告書作成事業 三徳山総合調査報告書第4集を発刊できなかった事情は十分理解できる。30年度には是非刊行して欲しい。		
⑳ 文化財の 保護・活 用	51 日本遺産魅力発信推 進事業	【成果】 東海道山陽新幹線グリーン車搭載誌、全日空国際線機内誌に記事を掲載。台湾のプロガーターを招きモニターツアーおよびSNSを活用した情報発信、多言語誘導サイン整備、県外での周知活動などを実施。地震等の影響などにより、三朝温泉宿泊者数が減少（36万5千人）。 【課題】 文化庁補助は平成29年度が最終だが、今後も町独自に活用の取り組みを続けていく必要がある。	B	B	B	目報達成に至らなかったものもその理由は理解でき、それぞれ努力なされている。 ◎51. 日本遺産魅力発信推進事業 宿泊者数を目標設定にすることは、観光関係のよう で少し違和感を感じる。	
	52 名勝及び史跡三徳山 史跡等買上げ事業	【成果】 文化財の適正な保護に資することができた。また、当初計画から土地2筆を除外した（相続人不存在、交渉不調のため）。	B				
53 名勝及び史跡三徳山 修復事業	【成果】 各分野の専門家で構成される検討委員会を2回開催し指導を受けながら実施した。平成29年度は建築工事、庭園工事、防災設備工事の一部を実施した。	B					

評価区分

7. 図書館

基本 施策	具体的事業	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
図書館奉 仕	・開館日	【成果】 1日あたりの勤務者が増えたので職員間の情報伝達が良くなり、通常の仕事の質が上がった。 【課題】 蔵書点検期間をもっと短期にしてほしいとの意見を利用者からいただいている。	A	A	A	★図書館業務の努力や運営の信念が強く感じられ、とても評価できる。 ★図書館は本町のとても大事な財産である。より身近な社会教育施設として位置付けることで、さらに図書館利用が促進されると考える。利用者にとってより良い空間としての居場所となるよう環境改善を望む。 ★サービスは概ね充実しているが、相談業務の更なる充実を望む。	町民を取り巻く社会環境がより複雑化、多様化する中、仕事や家庭、健康、福祉、教育など様々な分野で、町民の学習意欲や調査研究活動を支援し「役に立つ図書館」を目指すとともに、近隣の図書館との連携を図りレファレンスサービスの向上に努めます。 具体的な取り組みとして、 ①よりよい空間としての居場所づくり ＜短期的目標＞ ・館内レイアウトの変更を実施して滞在スペースを増やします。 ＜長期的目標＞ ・「お茶を飲みながらゆったりと過ごす」 「たまり場として気軽に集える」 情報の拠点であると同時に要望の多い上記の機能を充たす施設環境を整えます。 ②相談業務の更なる充実 ・研修の充実 図書館関係はもちろん、職員の習得意欲に応じて各種研修の参加を促すほか、館内研修の充実を図り、全職員が各種データベースを活用できる能力を身につけます。 また、郷土資料の内容を案内できる知識を蓄えます。
	・入館者	【成果】 60代以降の利用者の利用が増えた。 【課題】 滞在時間が長くなり、着席できる場所が不足している。	A				
	・貸出	【成果】 人口減の中、個人貸出が微増した。 【課題】 団体貸出が減った。これは小学校の資料要求が減ったためであり、図書館利用の働きかけが不十分だったと思われる。	A				
	・登録者	【成果】 例年どおり100人程度の新規登録者があった。 【課題】 利用のない登録者のデータ管理について再考が必要。現状の利用者数と大幅に乖離している。	B				
	・予約（リクエスト）	【成果】 予約件数は増加した。1週間以内に80%を処理した。 【課題】 相互貸借を更に利用して予約処理のより迅速化を図る。	A				
	・相互貸出	【課題】 学校関係の学習資料はリクエストが重なるため、調整して確実に取り寄せする必要がある。	B				
	・文献複写	【課題】 複写サービスの認知度が低いので周知・広報が必要。	B				
	・相談業務（レファレンス）	【成果】 読書案内に迅速に対応できた。 【課題】 郷土資料関係の対応が弱い。職員の対応にレベルの差がある。	B				
	・障がい者サービス	【課題】 サービスの必要な利用者に情報提供が不十分である。	B				
資料整備	・蔵書 【成果】 蔵書内容は多岐にわたり充実した。 【課題】 実用書の内容が古い資料の更新が不十分である。	B	B	A	★蔵書数が多いことにより、サービスを受ける利用者側からも利用しやすくなっている。 ★目標値93,000冊に対して実績97,910冊となっておりA評価とすべき。課題や反省点は必ずある。それを今後どう活かすかを検討することが重要。 ★蔵書は充実している。	引き続き、課題にあげた実用書の更新に努めます。	

評価区分

7. 図書館

基本 施策	具体的事業	成果と課題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
活動内容	・テーマ選書	【成果】 季節、社会情勢を反映した「コーナー展示」を実施して本の紹介に努め、貸出増加となった。	A	A	A	★図書館業務の努力や運営の信念が強く感じられ、とても評価できる。今後も工夫して様々な活動を行い町民の期待に応えてほしい。 ★保育園・小学校低学年までの年齢期は、本に親しむ重要な時期である。また、本に親しむ子どもは対応力についても優れていると考える。今後も学校授業の中で、国語力を伸ばすことが求められることから、力点を置いて取り組んでいただきたい。 ★管内の展示は良い取り組みである。	幼少期の読み聞かせの大切さについて、来館した保護者や保育所支援等で周知・啓発を図るとともに、図書館活動を広く外部に発信する取り組みを行います。
	・展示	【成果】 ①②は三朝町読書ボランティア、③は鳥取大学（地域教育学部の学生）、④は鳥取社会教育、⑤は鳥取県公共図書館協議会と協働で実施した。 本とパンフレット・チラシなどの情報を展示することでより実用的に本の紹介ができた。	A				
	・お話会	【成果】 保育園・東、西小学校は15分、南小は40分の時間でお話会を実施し、園児・児童の読書意欲喚起につながった。 【課題】 ストーリーテリングなどの語りにおけるスキルを向上する必要がある。	A				
	・学校支援	【成果】 多彩な分野の図書を準備して小学校を巡回し、児童の読書意欲を喚起した。学習資料のリクエストに確実に応えた。 【課題】 昨年比で学校のリクエスト件数がかなり減少したので利用の周知・広報が必要。	A				
	・保育所支援	【成果】 お話を楽しみにして親子での来館につながっている。 【課題】 家庭での読み聞かせにつながっていない。読み聞かせの大事さを啓発することが必要である。	B				
	・子育て支援	【成果】 ブックスタートの後、図書館で新規登録される親子が32組あった。 【課題】 職員だけで実施しているが、子育て経験のあるボランティア等の登用も考えたい。	A				
	・図書館行事	【成果】 来館者の増加につながった。特に古本市は昨年比+200程度の利用者の増加となった。 【課題】 外部団体との協同事業を増やし、図書館活動の輪を広げることを検討。	A				

評価区分

8. 総合文化ホール

基本 施策	具体的事業	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
文化ホール自主企画事業	・宝くじ文化講演会開催	【成果】 満席で、大変にぎわいを見せた。PA席を除く388席で満席（全体は404席）。 【課題】 様々な自主企画事業を検討し、文化ホールの利用促進と上質な文化の提供に努めていきたい。	B	B	A	★文化講演会の開催により、多くの町民が参加できたことは評価できる。 ★目標値との整合性あり評価できる。 ★今後も自主企画事業を多く実施していただきたい。	自主企画事業等により施設利用者の増加に努めます。
施設管理	・長寿命化事業	【成果】 成人式、学校行事（音楽会ほか）など各種イベントや三朝町サークル活動、確定申告、選挙、民間団体などに幅広く利用された。なお、5月末まで施設改修工事期間中であったので、利用状況は横ばいである。 【課題】 大ホールの利用は、イベントの開催回数等により利用者数は左右される。天災は不可抗力であるが、施設利用の増大に向け、あらゆる機会を捉え努力していきたい。	B	B	B	★町民の文化芸術に親しむ機会を増やすように検討をお願いしたい。 ★文化ホールは町民の学習・文化・交流活動の拠点となる施設として大切な役割を担っている。長寿命化事業が早期に完了したことは評価できる。	引き続きオペレーターの確保に努めるとともに、町民が文化芸術に触れる機会を設けます。
	・オペレーターの確保	【成果】 MOCは、自主事業、小中学校音楽祭、芸能文化祭、各種発表会などで舞台運営をサポートしており、文化ホールの円滑な運営に寄与している。 【課題】 新規会員を募集したが応募がなかった。音響、照明といった技術的な面を含め、引き続き会員募集し会員確保をしていきたい。	B				
地域づくり促進	・地域協議会活動支援	【成果】 行政等とも連携協力しながら、地域の課題解決に向け努力している。各種イベントにより交流活動と地域のにぎわいの創出や環境美化活動にも取り組み、魅力ある地域づくりに努めている。 また、竹田地域協議会においては「みさき南土曜楽校」を実施しているが、NPO法人里山地域研究会との連絡調整を行い、同事業を支援している。 【課題】 社会教育活動においては、今後とも継続して、連絡会等で情報提供、相談などに応じていきたい。	B	B	B	★各地域協議会は、特色のある地域行事を背景に住民との交流や健康増進、文化的活動をとおして、多岐にわたり地域住民の活躍の場となっている。今後とも地域の実情に応じた活発な取り組みを期待する。 ★地域協議会連絡会は町長との懇談会に変更することとなった。初回は防災体制の整備、高齢者の見守りについて要請があり、各地域協議会で取り組むことを確認した。  ◎各地域協議会が、努力し活動していることは、大変良いことだと思うが、今後の地域づくりを考えると、若い人たちの参加をもっと積極的に呼びかける必要がある。	H30から地域づくり事業は町長部局で推進することになりました。地域協議会も設置後10年を経過しており、新たな取り組みを検討している地域もありますので、今後の活動に期待します。



評価区分

9. 調理センター

基本 施策	具体的事業	成 果 と 課 題	事務局 評価	委員会 評価	外部 評価	★教育行政評価委員の意見 ◎教育委員の意見	評価への対応・今後の方向性・改善案等
施設管理	・調理機器老朽対策	<p>【成果】 過疎地域自立促進計画も変更承認され、計画的な設備更新が可能となった。</p> <p>【課題】 施工時期が限られるため、年度ごとに計画的な発注が必要。</p>	A	A	A	<p>★学校給食にとって計画的な設備更新が実施されており、とても評価できる。</p> <p>★三朝町の重要な施設。町内の学校給食を担っており、食の安全・安心面にさらに留意しながら、おいしい給食を提供していただきたい。また、機器の更新整備も必要に応じ整備されたし。</p> <p>★調理センター調理機器の老朽化対策に万全を期していただきたい。</p> <p>◎学校給食に支障のないよう願う。</p>	平成29年度に策定した施設更新計画（平成32年度まで）に沿って段階的に機器更新を行うことで良好な衛生環境を確保しつつ、安心、安全な給食の提供に努めます。